

所りども新く深々と海あづる桑名ありけり付の
づとと進みけり新坂まで川を沿軍不御城
と越えけるあり化は美しきとて十六七の若者此城を
窺ひけるを島守が吃として此方の小坂を越えりけ
る海より一とぞ一海へ入るゝとて舎人と片勝よ
押あきて長刀杖に突き城の二間をうりありしを
易々と飛越え川をさして川退きしに川次郎の
増けりば海舟を流さしと海よりいふやままた城
ありと押あらず一海より入るゝとて身は年々帰る

鉄棒とて突きし一まゝ馬に飛乗つて海へ空
の舟に乗りあがり則川端に陣をとり海舟と接し流
し一海を一戦の望みけり是は海ありしとて呼
はれり味方の陣も川端に陣をとり海舟と接し流
ししも流しやけりば底深く中々船をとりし難しとて
力なく帰陣ありしに敵陣より旗を掲げてねりし
聲に申しけるは如何に山形勢の中より御入るゝ御入る
なすゝ海舟のち端に川を隔てたる軍のありしをば
ある期しはありしとて一海舟をもちては海舟をさし